

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー






南アフリカ



インドネシア



インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		10/18 （10/11との比較）	10/18 （10/11との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	1.55% （+0.03）	82.60円 （+0.70%）	+1.6% 2019年2Q	1.75%	発表されたCPI（消費者物価指数）が市場予想を下回った一方、製造業売上高は市場予想を上回る内容。原油価格は下落したものの、カナダドルは対円で上昇。米国の金利上昇に伴い、国債利回りは上昇。	小売売上高や企業景況感調査などが発表予定。21日に予定される総選挙でトルドー首相が2期目を迎えられるかにも注目が集まる中、欧米の金融政策を巡る動きをにらんで、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。
	Aaa	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	→ 据え置き局面		
ブラジル 	BB-	5.38% （▲0.15）	26.35円 （▲0.09%）	+1.0% 2019年2Q	5.50%	発表された登録雇用創出合計は市場予想を上回る内容。最大の輸出先である中国のGDP（国内総生産）などの経済指標が市場予想を下回ったことなどもあり、リアルは対円で下落。国債利回りは低下。	消費者信頼感や経常収支などが発表予定。年金改革法案の上院での2回目の審議が22日に実施される予定となり、その動向にも注目が集まる中、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。
	Ba2	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	↓ 利下げ局面		
メキシコ 	A-	6.71% （+0.03）	5.68円 （+1.36%）	-0.8% 2019年2Q	7.75%	特に注目すべき経済指標の発表はなし。中銀の議事要旨では、追加利下げについては慎重な姿勢を示す参加者もみられた模様。米中関係の改善期待も台頭する中、メキシコペソは対円で上昇。国債利回りは上昇。	失業率や経済活動指数、小売売上高などが発表予定。景気下支えのために今後も継続的な利下げが予想される中、国債利回りは低下基調を予想。メキシコペソは上値の重い展開を予想。
	A3	↓ 金利低下	→	→ 景気安定	↓ 利下げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		10/18 （10/11との比較） 今後の見通し （※4）	10/18 （10/11との比較） 今後の見通し （※5）	前年比 （※3） 景気の方向性 （※6）	先週末 方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	1.10% （+0.09）	74.36円 （+1.08%）	+1.4% 2018年4Q	0.75%	発表された雇用統計では雇用者数が市場予想を下回る一方で、失業率は市場予想を上回る改善を示唆。早急な追加利下げは回避されるとの見方が一部で台頭する中、豪ドルは対円で上昇。国債利回りは上昇。	製造業PMI（購買担当者景気指数）などが発表予定。引き続き、米中通商協議の更なる動きや、欧米の金融政策を巡る動きなどに注目が集まる中、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
ニュージーランド 	AA+	1.23% （+0.08）	69.23円 （+0.87%）	+2.1% 2018年4Q	1.00%	発表された住宅売上高は前年比での改善を示し、CPIの伸び率は前月から鈍化する内容。米中関係が小康状態にある中、国債利回りは上昇。ニュージーランドドルは対円で上昇。	貿易収支などが発表予定。インフレ率が中銀の目標より低位で推移しており、中銀のハト派姿勢が続くとみられる中、金利水準は基調としては低下していく展開を予想。為替については、現状水準でのみ合いを予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
ノルウェー 	AAA	1.29% （+0.05）	11.83円 （▲0.75%）	-0.7% 2019年2Q	1.50%	発表された貿易収支は前月比で悪化する一方で、住宅価格指数は前期比での改善基調を継続。米中関係に悪化する動きが見られず、市場も小康状態にある中、国債利回りは上昇。ノルウェークローネは対円で下落。	鉱工業信頼感指数や失業率などが発表予定。中銀は政策金利を据え置くと予想され、政策姿勢などについての言及が注目される中、債券・為替市場はともに一進一退の展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気拡大	 据え置き局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。

※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		10/18 （10/11との比較）	10/18 （10/11との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
南アフリカ 	BB+	7.31% （▲0.00）	7.35円 （+0.42%）	+0.9% 2019年2Q	6.50%	発表された小売売上高は市場予想を下回る内容。国営電力公社エスコムが計画停電を実施する方針を示しており、経済活動や財政などへの影響が懸念される中、国債利回りは横ばい。ランドは対円で上昇。	CPIなどの発表を予定。11月初旬には格付の見直しが予定され、経済や財政などへの先行き懸念が台頭する一方で、欧米の中銀の金融政策期待もあり、債券・為替市場は一進一退の展開を予想。
	Baa3	 金利横ばい		 景気停滞	 利下げ局面		
インドネシア 	BBB-	6.63% （▲0.05）	0.77円 （+0.00%）	+5.1% 2018年4Q	5.25%	発表された貿易収支は市場予想を下回り赤字となる内容。経済成長率が政府目標を下回る状況から抜け出す兆しがみえない中、インドネシアルピアは対円で横ばい。国債利回りは低下。	特に注目すべき経済指標の発表はなし。ジョコ大統領が2期目となり政権運営が試される環境下、中銀は追加利下げを実施すると予想され、その政策姿勢が注目される中、債券・為替市場はともに一進一退の展開を予想。
	Baa2	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
インド 	BBB-	6.29% （▲0.03）	1.53円 （+0.18%）	+5.0% 2019年2Q	5.15%	発表された貿易収支では、世界的な景気減速を受け低調な輸出が目立つ内容。野菜高騰の影響などによりCPIが市場予想以上に上昇する中、国債利回りは低下。インドルピーは対円で上昇。	特に注目すべき経済指標の発表はなし。金融緩和の累積的な効果や法人税減税の効果などへの期待感があり、欧米の金融政策を巡る動きなどに注目が集まる中、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。
	Baa2	 金利横ばい		 景気回復	 利下げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（南アフリカ：3年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

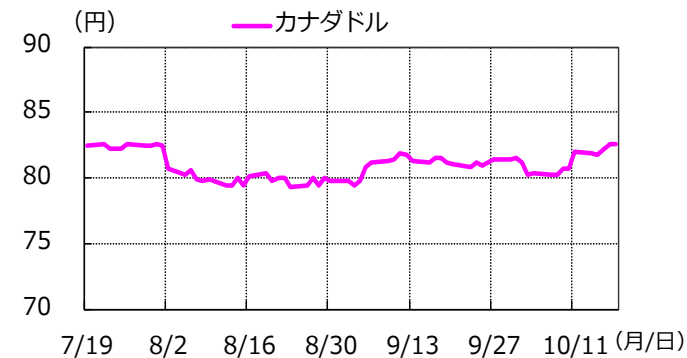
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。

※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

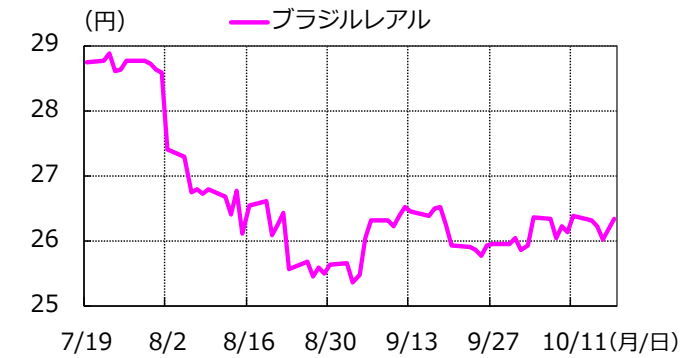
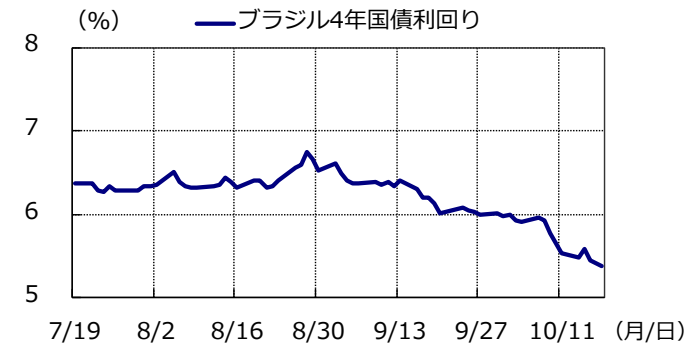
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/7/19～2019/10/18

カナダ



ブラジル



メキシコ

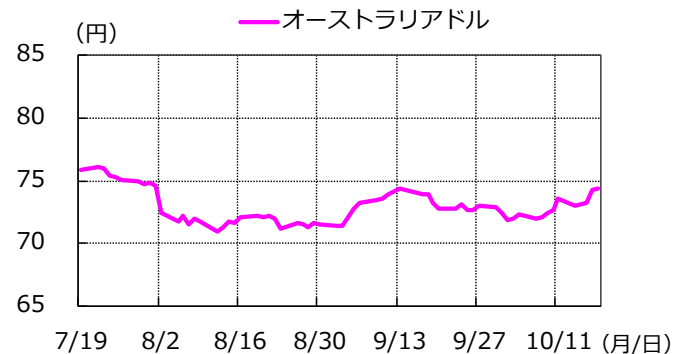
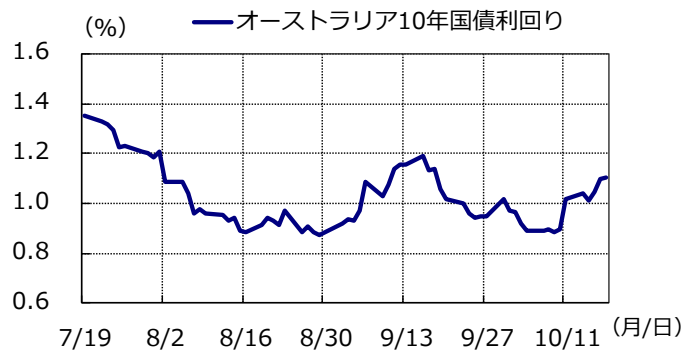


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

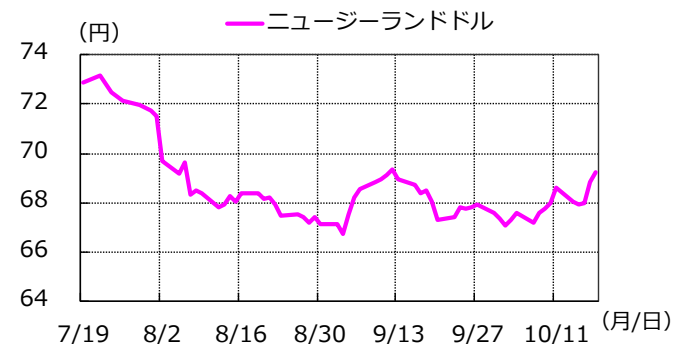
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/7/19～2019/10/18

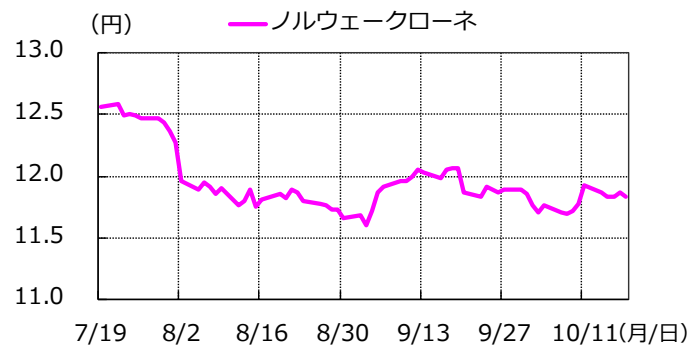
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

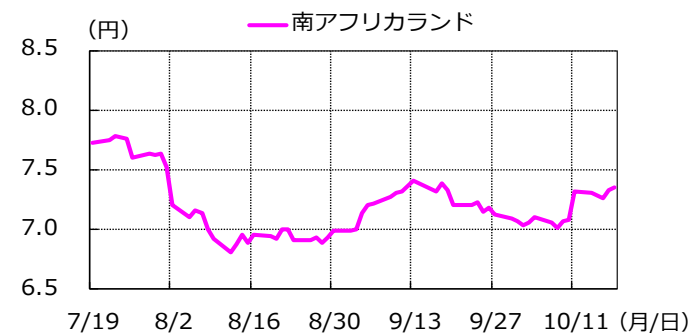
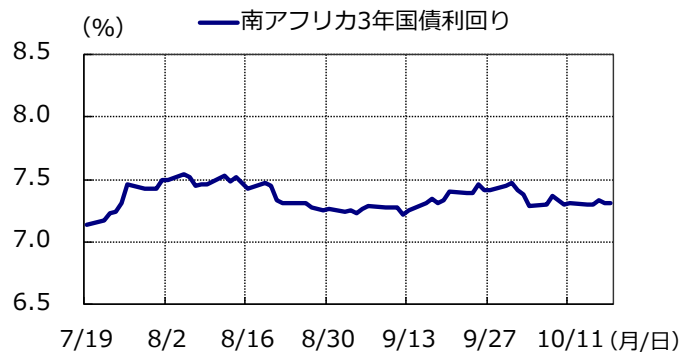


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバークのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

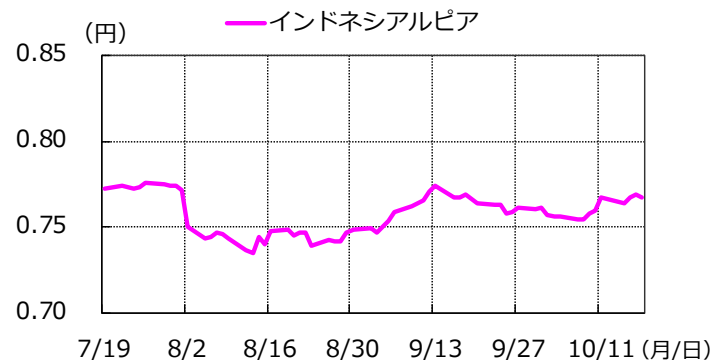
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/7/19～2019/10/18

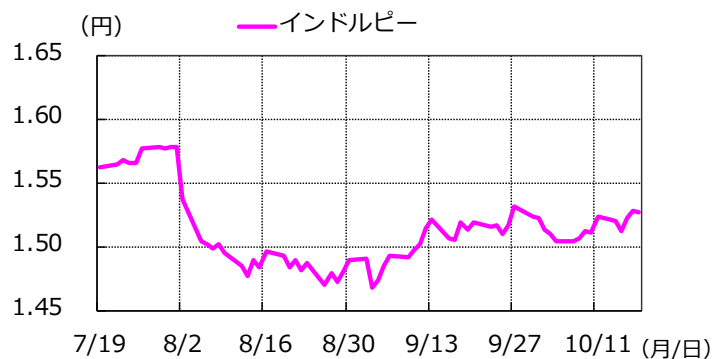
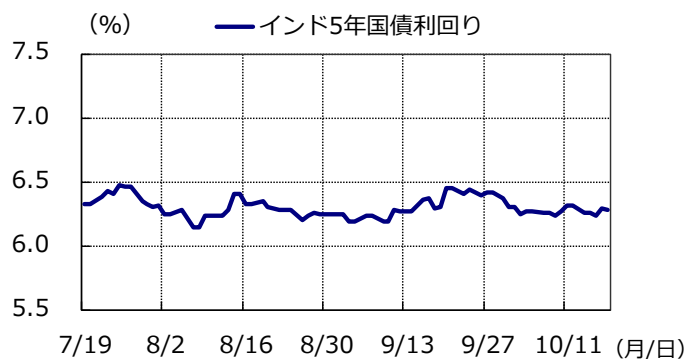
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡しますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。